

## 華潤飲料、香港株上場後初のESG報告書を発表

2025年4月、華潤飲料はESG報告書を発表し、2024年の単位製品当たりの二酸化炭素排出量は2020年より25.84%減少し、分散型太陽光発電プロジェクト、再生水回収などの措置を通じてグリーン生産を実現したことを明らかにした。このほか、同社は「怡宝ペーパ再生計画」を発起し、ペットボトルを回収することで5796 kgの排出削減を実現した。

華潤飲料は今後3年間、グリーン技術の研究開発に10億元を投資し、ESG指標を会社のサプライヤー審査システムに組み入れる計画である。

華潤飲料はESGを生産チェーン全体に融合させ、業界にグリーン転換の実例を提供するが、そのESG管理システムはさらに透明化する必要がある。今後、飲料メーカーは包装のサイクル、エネルギー効率の最適化などの面で持続的に力を発揮し、業界全体のESGの取り組みは顕著に向上するとみられる。

## 康師傅はS&Pグローバル社のSustainability Yearbookに選定され、食品業界の最優秀進歩賞を受賞した

2025年5月、康師傅S&Pグローバル社の《Sustainability Yearbook（中国版）》に初めて選定され、食品業界の唯一の“最優秀進歩企業”を獲得した。そのCSAスコアは前年より28%上昇した。

具体的なプロジェクトの面では、“万物にyuánがある”プロジェクトは4000万人の農民に利益をもたらし、環境にやさしい野菜基地を建設し、AI自動化農業モデルを導入した。

康師範のESGの実践は単一の環境保護から全産業チェーンの協同に転換し、サプライチェーン能力とAI技術を十分に運用し、“企業+基地+農家”の産業チェーンモデルを構築し、現地農家の就業を牽引した。中国ブランドの責任を体現するとともに、良好なESGへの取り組みにより同社の市場競争力を十分に向上した。

## ABInbev、世界最大のビール瓶回収計画を開始

2025年4月、ABInbevは世界最大のビール瓶回収計画を開始すると発表し、2030年までにすべての包装を100%回収できるようにすることを目標とした。この計画は世界50の生産拠点を網羅し、ブロックチェーン技術を通じて瓶の流れを追跡し、回収率を高める。

このほか、ABInbevは現地コミュニティと協力してリサイクルネットワークを構築し、年間1万トンのプラスチック使用量を削減できると予想している。

ABInbevは技術革新とコミュニティとの提携を通じて包装の循環を推進し、業界にベンチマークを樹立した。そのブロックチェーン追跡システムは、消費者の信頼度を著しく向上させ、ブランドの差別化競争を支援すると予想されている。

## 農夫山泉、2024年に包装の減炭素と水源地の保護のWブレークスルーを実現

2025年5月、農夫山泉は年間ESG報告書を発表し、2024年に軽量化ボトルの設計により、PETプラスチックの使用量は8000トン減少し、2020年の累計より12%減少した。水源地保護の面では、2億3000万元を投入して千島湖、白頭山などの水源地生態モニタリングシステムをアップグレードし、新たに保護面積が50万ムーを超えた。

このほか、同社は中国環境科学学会と共同で、200都市にスマート回収機を投入し、年間1億2000万本以上のペットボトルを回収する。ボトルには魂がある、計画を立ち上げ、そのうち30%の再生材料を新包装の生産に使用する。

農夫山泉は包装循環と水源地保護を核心としてESGの堀を構築し、スマート回収機の大規模な応用は業界に複製可能なモデルを提供する。しかし、再生材料のコストが高く長期的な普及に影響を与える可能性があり、環境保護への投資と経済効果のバランスを取る必要がある。